

会長就任挨拶



2025年5月22日
日本製薬団体連合会
会長 安川健司

この度、日本製薬団体連合会の会長を拝命しました安川健司です。就任にあたり、ご挨拶を申し上げます。

医薬品産業の使命は、高品質な医薬品の安定供給や革新的新薬への迅速なアクセスの確保等により、国民の健康を支えること

です。また、国の経済成長を牽引する基幹産業としても期待されています。一方、現状は、度重なる薬価制度改革によって産業の成長が抑制されているだけでなく、日本の医薬品市場の魅力を損なうことによるドラッグラグ・ロスを助長して革新的な新薬が国民に届かないという弊害が生じています。さらに、医薬品の安定供給にも悪影響を及ぼす一因にもなっています。その結果、日本国民が高品質かつ革新的な医薬品にアクセスできない事態に陥っています。その根本的原因について熟考した結果、現在の国民皆保険制度の運用に問題があるのではないかと思に至りました。

昭和33年(1958年)に制定された国民健康保険法に基づく国民皆保険が実施されて60余年以上が経過し、この間に国民の平均寿命は延び、死亡要因となる疾患や人口の年齢構成は大きく変化しました。医学・科学技術の進歩に伴って、これまでにない画期的な治療手段も生み出されてきました。そのような変化の中、現在の社会保障制度は財政面においてますます厳しい状況に直面しており、その持続可能性が危ぶまれています。日薬連会長として、私は、加盟団体の皆様と緊密に連携を図りながら、政府や様々なステークホルダーと対話を重ね、この課題解決に取り組んでまいります。

いまこそ産業界を含めた全てのステークホルダーが社会保障制度の改革に向けて動き出すときです。限りある医療資源の有効活用に向け、産業界は革新的医薬品の創出や医薬品の安定供給はもとより、医療の効率化に資する新たなソリューションの創出に邁進すべきです。政府には、医療の効率化を加速させる抜本的な制度改革を行うとともに、縮小均衡ではなく、医薬品産業を外貨獲得産業として育成するための産業政策の策定と実施を求めます。

国民一人ひとりが、本来大きなリスクに対して備える互助システムである国民皆保険制度の根本的な思想を正しく理解し、現状とのギャップに対する認識を高めていただく必要があります。私は、それを推進するためのアドボカシー活動にも力を入れてまいります。

これらの改革を一体となっていくことで、国民の健康維持・増進と経済成長の両立が実現し、かつ持続可能な社会保障の未来が見えてくるはずです。

(以上)